

令和 6 年度環境保全報告書

株式会社関電エネルギーソリューション

神戸リサーチパーク熱供給センター

① 2024 年度の重点取組目標・計画の実施状況

当社では事業活動の環境負荷低減を目指し、使用エネルギーの原単位を毎年前年度比で 1 % 削減を目標にして取組んでいる。

神戸リサーチパーク熱供給センターは 2014 年 4 月に「関電エネルギー開発㈱」から「関電エネルギーソリューション」に統合合併されたため、目標設定を行う基準年度を当該合併した 2014 年度にすることとし、熱製造等における操作・運用面の改善によるエネルギー使用量の削減等省エネルギーの推進に努めている。

また、高経年化による機器の効率低下が予想されるため、冷凍機の更なる効率運転に努め、エネルギー原単位の低下抑制に取り組んでいる。

ア. 神戸リサーチパーク熱供給センターのエネルギー使用状況と原単位

項 目		単位	2014 (基準年度)	2022	2023	2024
販売量	冷温水の販売熱量	GJ	141,694	115,249	102,036	101,184
エネルギー	消費電力量	MWh	13,906	12,326	11,551	11,965
熱量換算	一次エネルギー換算熱量	GJ	134,043	119,317	99,804	103,379
単位 発熱量	エネルギー原単位	GJ/GJ	0.946	1.035	0.978	1.022
CO ₂ 排出量	全CO ₂ 排出量	t-CO ₂	7,175	7,420	5,013	5,013
	自家消費CO ₂ 排出量	t-CO ₂	926	1,131	809	895
プラントCO ₂ 排出原単位		t-CO ₂ /GJ	0.0441	0.0545	0.0412	0.0407
電力CO ₂ 排出係数		t-CO ₂ /MWh	0.516	0.602	0.434	0.419

[一次エネルギー換算熱量 (GJ) = 消費電力量 (MWh) × 昼間 9.97 (夜間 9.28) (GJ/MWh)] 2022 年度以前

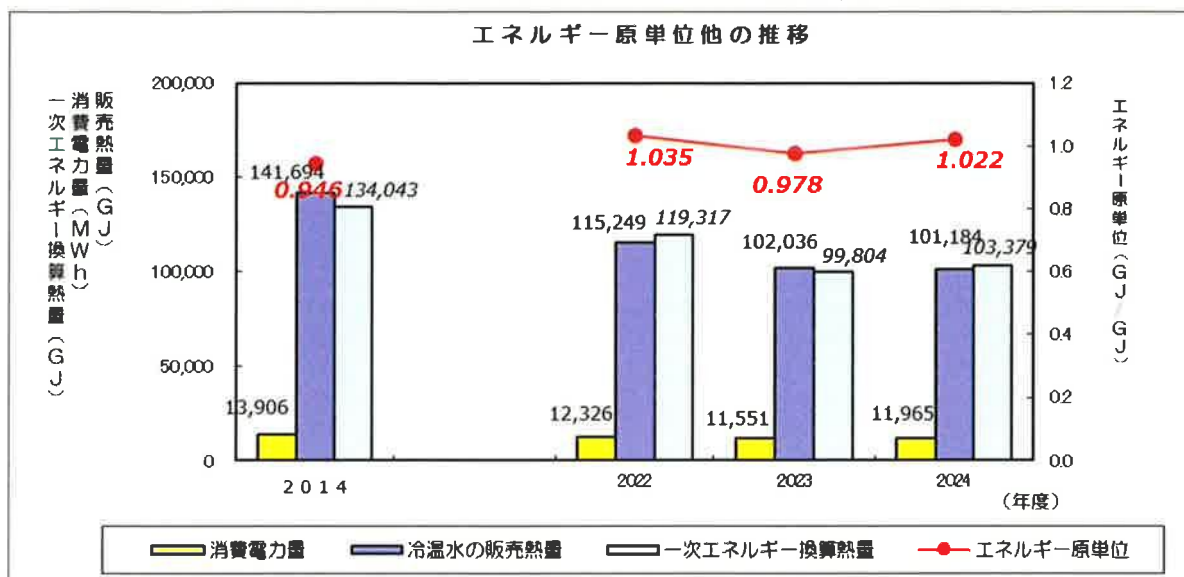
[一次エネルギー換算熱量 (GJ) = 消費電力量 (MWh) × 昼間 8.64 (夜間 8.64) (GJ/MWh)] 2023 年度以降

[エネルギー原単位 (GJ/GJ) = 一次エネルギー換算熱量 (GJ) / 販売熱量 (GJ)]

[プラント CO₂ 排出原単位 (t-CO₂/GJ)

= 製造に寄与した電力量相当の CO₂ 排出量 (t-CO₂) / 製造熱量 (GJ)]

イ. 販売熱量とエネルギー使用量およびエネルギー原単位の推移



ウ. 考 察

2024年度の販売熱量は前年度比0.8%減少、消費電力量は同比3.6%の増加となった。また、エネルギー原単位は前年度比1.0%削減目標に対し4.5%の増加となり年度目標は達成できなかった。原因は高効率機が定期点検等で長期間運転できず、代替機として効率の低い機器を稼働させたことによるものである。

基準年度の2014年度と比較すると、販売熱量は28.6%の減少、消費電力量も14.0%の減少となった。また、エネルギー原単位について8.0%の増加となっており、地球環境問題への貢献に向け引き続き工夫が必要と考える。

当センターは日々の省エネに努めているが、熱負荷減少により熱源機効率が低下している。さらに高経年化による機器の効率低下などがあるので、今後も更なる効率運転等を図るよう努めていきたい。

② 地球温暖化対策 【温室効果ガスの抑制】

事業活動におけるCO₂排出原単位は2014年度比で2030年度までに4.5%削減を目標としており、2024年度は熱製造に寄与する電力量および熱損失の低減に努めるため、熱製造における運用面の改善によるエネルギー使用量削減等の取組みを行った。

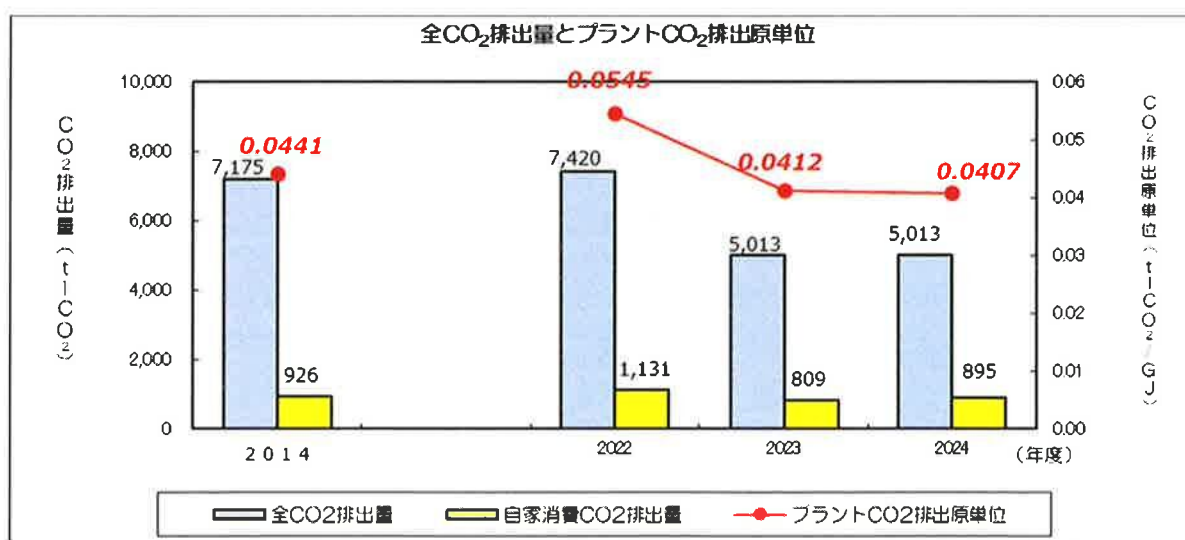
ア. CO₂排出量およびCO₂排出原単位

電気事業に伴う実績 CO₂ 排出係数を基準年度値に換算して計算する。

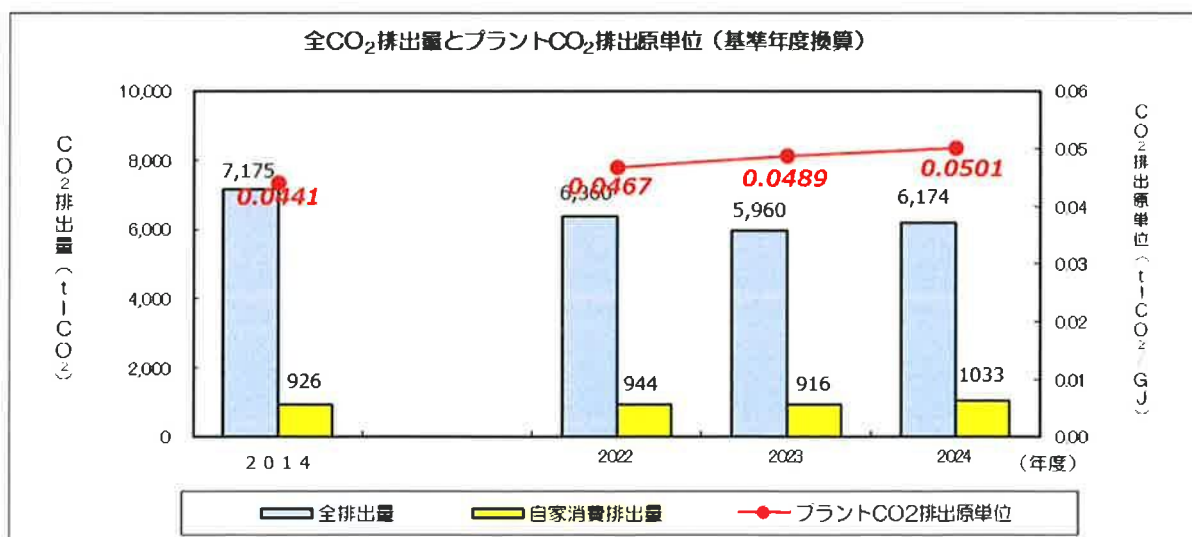
項 目		単位	2014 (基準年度)		2022	2023	2024
CO ₂ 排出量	全排出量	t-CO ₂	7,175		6,360	5,960	6,174
	自家消費排出量	t-CO ₂	926		944	916	1033
	お客さまに供給した 熱量に相当する排出量	t-CO ₂	6,249		5,416	5,044	5,141
プラントCO ₂ 排出原単位		t-CO ₂ /GJ	0.0441		0.0467	0.0489	0.0501
自家消費CO ₂ 排出量削減率	前年度比	%	—		2.6	-3.0	12.8
2014年CO ₂ 排出係数に統一		t-CO ₂ /MWh	0.516				
プラントCO ₂ 排出原単位	前年度比	%	—		3.1	4.7	2.5

イ. CO₂排出量およびCO₂排出原単位の推移

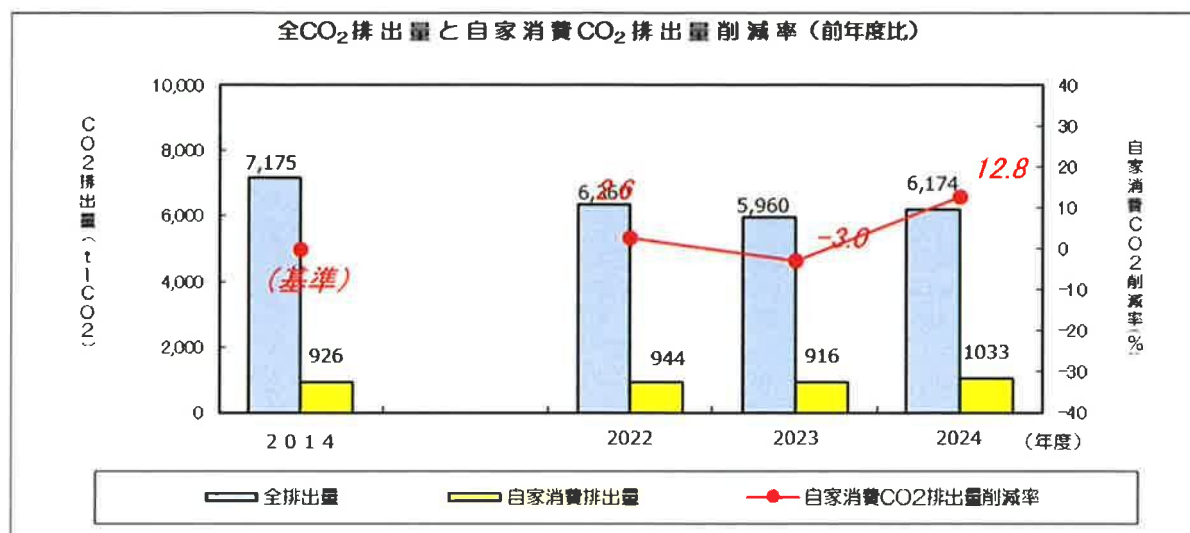
【実 績】



【基準年度ベース】



【前年度比】



ウ. 考 察

2024年度の当センター全体の消費電力量の基準年度換算のCO₂総排出量（2014年度の電力CO₂排出係数0.516t-CO₂/MWhに統一して算出した値）は4,802t-CO₂で、その内お客さまに供給した熱量に相当する同換算CO₂排出量は3,945t-CO₂であった。したがって、自家消費（センター内消費）分に相当する同換算CO₂排出量は857t-CO₂で前年度比では10.6%増加した。また、2024年度と同換算CO₂排出原単位（2014年度の電力CO₂排出係数0.516t-CO₂/MWhに統一して算出した値）は0.0463t-CO₂/GJで、前年度の0.0407t-CO₂/GJと比較して3.0%の減少となった。

今後は高経年化による機器の効率低下等に鑑みて、冷凍機の更なる効率運転、各種省エネ対策により熱製造に寄与する電力量および熱製造損失分の低減を図り、CO₂排出原単位の削減を図る。大きな効果のある省エネ対策は今後、期待できず苦しい環境ではあるが、小さな省エネ対策を積み重ねる努力を行い、CO₂排出抑制の積極的な取り組みを継続する。

エ. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

	具 体 的 対 策 項 目	内 容	目 標	実施結果
1	運用面の改善によるプラント効率の向上	エネルギー 原単位の削減	2024 年度 エネルギー原単位 0.968 以下	実績 エネルギー原単位 1.022
2	室内温度管理の適正化による節電	冷暖房温度の 適正化	夏季：28℃ 冬季：18℃	実施率 100%
3	不要な照明灯消灯による節電	不要照明消灯	完全消灯	実施率 100%

③ 公害防止対策に係る報告

ア. 2024 年度 排出水の汚濁状態測定結果

項 目 (法令排水基準設置項) 神戸市下水道条例	排除 基準	測 定 値		全 測定 回数	目 標 値 を 超 過 した測定回数	目 標 値 達 成 判 定	法 令 基 準 達 成 判 定
		最小～最大	平均				
水素イオン濃度 (pH)	5 を超え 9 未満	7.36～ 8.44	8.11	12	0	○	○

[凡例 ○：達成 ×：未達成]

イ. 2024 年度の騒音および振動状態測定結果ならびに産業廃棄物管理

項 目	管理基準	測 定 値		測定 回数	備 考
		最小～最大	平均		
騒音発生状況	兵庫県条例 40～60db	42.3～ 56.8db	49.3db	2	各測定値は基準値以内であり全て良好である。
振動発生状況	所内基準 25.0/1000mm 振動法規則 60～70db	3.0/1000～ 20.9/1000 mm	8.9/1000 mm	2	
産業廃棄物 管理状況	法令に基づく 適正な処理	産業廃棄物の発生はなかった。			

④ 公害防止対策、地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る報告

ア. 2024 年度の環境保全活動にかかる具体的実施内容

	分 野	項 目	細 目	目 標	実施状況
1	事業所等での 節水	節水	—	実施率 100%	実施率 100%
2	事業所等での 廃棄物の適正 処理・減量	分別回収	—	実施率 100%	実施率 100%
		ミスコピー紙の再利用	両面コピー の徹底	実施率 90%	実施率 90%
		廃棄物(紙廃棄) 発生量の削減	再利用・再 資源化の推 進	発生量(計画値) 45kg 以下	発生量 75kg (雑誌類の一括廃棄)
		資源ごみの資源化	—	資源化率(計画値) 49%以上	資源化率 100%
		生ごみ・可燃ごみ の減量	—	排出数量(計画値) 35kg 以下	排出数量 71kg (大規模修繕実施によ る人員の一過性増加)
3	環境整備	構内緑地(1,554 ㎡)の整備	清掃・整備 の計画実施	4 回	4 回
4	従業員教育	環境保全に関する 社員教育	—	1 回	1 回
		社内外関係書類で の啓発	—	都度	1 回
5	地域における 環境保全活動 への参画	事業所周辺の清掃 活動	—	1 回	1 回

以 上